

カタツムリを探そう

芳我 めぐみ(千葉市)

日 時： 2009 年 7 月 5 日（日） 10：30～12：00 天気：晴

参加者： 27 名（大人 13 名、子供 14 名）

担当指導員：岡田敬子・芳我めぐみ

今回は梅雨の時期におなじみのカタツムリを観察テーマに選びました。大草ではミスジマイマイ・オナジマイマイ・ヒダリマキマイマイ・ニッポンマイマイの 4 種が記録されています。その中で大草では一番良く目に付くミスジマイマイを観察の主体にしました。杉林に入ってすぐに小さなカタツムリを下草の葉の上に参加者の子供さんが発見しました。一つ目に留まればあとは次々と発見できます。小さなカタツムリは殻が薄く肺や肝臓が透けて見えます。大きなカタツムリでは、大小 2 対の触覚、成長線、冬眠線も確認しました。殻の入り口の反り返りで親と子を判別でき、これは容易に見分けることができましたが、冬眠線によってカタツムリの年齢を知るのは実体を使ってはなかなかむずかしいものがありました。カタツムリの生態をわかりやすく見せるため透明な容器に入れて前に進むときの足の動きを観察し、ナイフの上、蔓、ぎざぎざの竹箒を難なく歩くカタツムリの足の秘密を説明しました。二日前から三匹のカタツムリにそれぞれニンジン、キュウリ、リンゴのえさを与え、えさによってフンの色がどうなるか観察しました。ニンジンは赤いフン、キュウリ、リンゴは緑色のフンでした。また えさの食べ跡を観察し、削り取るように食べることも確認しました。自然界ではカタツムリの主食は藻類であることも付け加えました。この日の観察会は低年齢の子供さんが多く、次々出てくる生き物に目を奪われ大騒ぎ、アカガエル、ザリガニ、トンボ類、バッタなど何でも手にとって見ていました。生き物たちには少々受難な一日だったかもしれません。